

5月9日

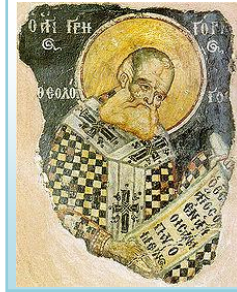
主教教会博士

ナジアンソスのグレゴリー

Γρηγόριος Ναζιανζηνός

(329~389)

～カパドキアの三教父～



「ナジアンソスの
グレゴリオスのアイコン」

アトス山

シモノペトラ修道院所蔵

小アジアの東北部、カパドキア州のナジアンソスに彼は生まれる。母ノナは信心深く、彼は幼い時から感化を受けて育っていった。また、父は初めは信徒ではなかったが、多年市長をつとめたあと、妻の影響で信仰に入り、老後は司教としてナジアンソス教区を司牧する。

さて、グレゴリーは、カイザリア、アレクサンドリアで学んだ後、20歳のころにアテネ大学に留学する。そこで主教教会博士バジル(バシレイオス)と出会い、生涯消えることのない友情を結ぶ。

「わたしたちはただ二筋の道しか知らなかった。一つは学校へ通う道であり、もう一つは教会へ行く道であった」という彼の言葉の中に、彼の真面目さが表れている。

そののち、グレゴリーはナジアンソス教区の司教である父を助け、父が死んだ後もその地にとどまり、司牧をする。

そして380年、グレゴリーが51才のとき、ローマ皇帝テオドシウス1世はコンスタンティノポリスの大聖堂に彼を招く。それは325年のニカイア公会議において、キリストを単に優れた被造物にすぎないと説くアレイオス派の考えを異端としたものの、東方においてはその政治的理由により支持されていたためである。

グレゴリーはアレイオス派のために悩まされていた信徒たちに対し、雄弁に三位一体について説教をおこなった。そして迷える人びとを、教会へと立ち返らせていった。

彼は381年のコンスタンティノポリス公会議において帝都の司教に推薦されるが、陰謀をたくらむ者がいたことから、教会の平和のために身を引く決心をし、ナジアンソスに戻っていった。

その時、彼が最後に告げた言葉が、次の預言者ヨナの言葉であった。

「わたしの手足を捕らえて海にほうり込むがよい。そうすれば、海は穏やかになる。わたしのせいで、この大嵐があなたたちを見舞ったことは、わたしが知っている。」 (Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士ナジアンソスのグレゴリーの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン